平成23年度　6月定例会

一般質問

（岡本議長）　休憩前に引き続き、会議を再開します。一般質問を許します。1番前住孝行議員。

（前住議員）　はい。皆さん、こんにちは。1番前住です。本日はご多忙中の折、傍聴に来てくださった方、またインターネット中継でご視聴の方々、ありがとうございます。

先日、テレビで東日本大震災の経験から結婚する人が増えたという報道を聞き、とても良いことだなと思いました。若桜町にもその影響が多くあってほしいと思っています。また、議員になって最初の一般質問で「婚活推進を」と質問させてもらいましたが、昨年度東部4町で行われている婚活イベントに若桜町出身者も参加し、若桜町出身者がかなり人気だったようです。それで、結果、カップルとしても成立して、なんと今も交際が続いている方があるそうです。とても良い情報だったので、この場を借りて話させてもらいました。このような勢いで、今年若桜で行われるイベントも期待しているところです。

それでは通告させていただいています3つの質問に入りたいと思います。

氷ノ山アルペンの助成について

まず、氷ノ山の四季を通じた集客整備についてです。

氷ノ山樹氷スノーピア、スノーピアコースを全日本スキー連盟公認コースにされ、新たなレベルの高い大会を計画されていましたが、今回の震災のために中止になったことは仕方がないとはいえ、残念に思います。来シーズンこそは、実質の第1回目となり、確実に成功させなければならないのではないかと思います。これまでも鳥取県スポーツ・レクリエーション祭など様々な面で支援をされていますが、今回の大会でも同様の支援をしていただければ、よりよい大会ができると思います。教育長の所見を伺います。

（岡本議長）　答弁を求めます。植嶋教育長。

（植嶋教育長）　はい。スノーピアコースで全日本スキー連盟公認大会の支援について、所見を伺うとのことでございます。この春、去る3月19日、20日の2日間、鳥取県スキー連盟の主催によります氷ノ山アルペンスキー大会が予定されておりましたが、仰せのとおり中止となりました。この大会は全日本スキー連盟B級公認コースとして、氷ノ山で初めて開催される大会でありまして、県スキー連盟の地元役員さんが主体となって準備を進めてこられました。ちょうどこの2月には、鳥取県民スポーツ・レクレーション祭冬季大会が開催されたところでありまして、若桜町としましても、この大会と同様に人的及び機材等の支援を予定していたところでございます。また、大会の運営費につきましても、同様に支援を予定していたところでありまして、来季におきましても氷ノ山スキー場のさらなる活性化のため、同様な支援を行いたいと考えているところでございます。なお、今シーズンの大会は中止となりました

が、鳥取県スキー連盟の主催といえども、若桜町に中止とされるまでの事前の協議をしてほしかったと、このように思っているところでございます。

（岡本議長）　前住孝行議員。

（前住議員）　はい。とても良い答えをいただきましてありがとうございます。３月になると、雪質もあまり良くなくなってしまいまして、一般のスキーヤーっていうのはやっぱり減る傾向にあります。その中で、競技スキーヤーっていうのはシーズン後半になるにつれて、技術も上達してその腕を試したいというふうに考えていくと思います。この大会が盛り上がることで、また氷ノ山が集客につながると考えられますので、今後も支援をよろしくお願いします。

次に移りたいと思います。

氷ノ山の四季を通じた集客整備について

平成 22 年３月の一般質問でさせてもらった氷ノ山にマラソン大会をというのは、氷ノ山のトレイルランの誘致につながったと思われます。チェックポイントで豚汁を提供されたことは、若桜の特産品のＰＲになったのではないかなというふうに思われます。その提案した趣旨の中に、登山までにはいかないまでも、きれいな空気の山で散策するような遊歩道的ものができたらなあという意味もちょっと入っていました。そこで、夏は遊歩道、冬はクロスカントリーのコースとなるような道ができないものかというお尋ねです。先日、保育所の親子遠足で響の森からキャンプ場まで歩いて上がりました。小さい子がいる家族は登るだけでもいいのですけど、年長ぐらいなると、まだまだ歩き足りません。結局登山道を少し登って展望台まで行ったのですが、行って同じ道を帰ってきました。そうではなく、周回できるような道があると、行き帰りで違った景色を楽しめたりできるのではないでしょうか。観光客誘致の観点から町長の所見を伺います。

（岡本議長）　答弁を求めます。小林町長。

（小林町長）　はい。前住議員の夏は遊歩道、冬はクロスカントリーのコースとなるような道ができないかとの所見を伺うということでございますけども、現在、氷ノ山スキー場の上部、仙谷登山道から三の丸登山道を結ぶ自然探勝路やキャンプ場の上部に向かう遊歩道などがあり、途中には展望デッキが数ヶ所整備されておりまして、頂上までは行かなくても、散策や景色を楽しめることはできております。クロスカントリーのコースとしましては、圧雪車の通行可能な幅員の確保が最低限必要と考えておりまして、現在のスキー場付近での遊歩道を兼ねたコースの整備は、なかなか困難ではないだろうかなと思っております。響の森キャンプ場付近では、道路の整備がなされておりますので、現在ではこの付近をクロスカントリーコースとして大会を開催しているところでございます。

新規で遊歩道を兼ねたコースの整備につきましては、財政用地取得、維持管理などの面からも困難ではないかなと、そのように考えておるところでございます。

（岡本議長）　前住孝行議員。

遊歩道をクロスカントリーコースと兼ねては？

（前住議員）　はい。先程クロスカントリーの件もありましたので、次の質問にちょっと入りたいと思いますが、ちょっと新たな情報もありますのでお願いします。４月の若桜小学校の人事異動で鳥取県スキー連盟のクロスカントリー強化コーチをされている教諭植島直生君に、来ていただいています。若桜町の特色ある教育を実践されるにあたっての人事をされて、期待しているところです。先程、遊歩道の件と関連しますが、冬に遊歩道をクロスカントリーのコースとして使えれば、アルペンの大会だけではなく、クロスカントリーの大会も誘致することができます。実は、中国中学校スキー大会、中国高等学校スキー大会というのが現在あるのですが、その大会が来年度以降、合同でされるような話を聞いています。そうなりますと、アルペンも、クロスカントリーも同時に開催されることになりまして、その２つ、アルペンもできるし、クロスカントリーもできるというスキー場での持ち回りの大会になってしまいます。

クロスカントリーのコースが行って帰るコースではなく、周回できるコースっていうのができてくると、選手にも満足してもらえる大会にはなるのではないかなというふうに思っているところです。現在は大山と芸北国際（広島）の２つのスキー場しかなくて、３つ目の候補地として整備をしていただければ、氷ノ山も入れてもらえることができると思います。

また、今回の、今年の２月に行われました国民体育大会で６位に入賞された元若中の教諭の宮脇宏和先生の練習場所にもなります。そこで、地元選手も一緒に練習することで、一流の技術を見ながら練習することができると思います。そのことを踏まえて、教育長の所見を伺います。

（岡本議長）　答弁を求めます。植嶋教育長。

（植嶋教育長）　はい。クロスカントリーの大会の誘致についての所見を伺うとのことでございます。現在のクロスカントリーコースは**響きの森**駐車場横のテニスコートを発着点といたしまして、峠茶屋折り返し、キャンプ場折り返しコースとしているところでございます。鳥取県スポーツ・レクリエーション祭や町の大会などでは、出場選手が少ないためにこのコースを使用しておりますが、参加者が多くなれば、現在のコースでは発着地点やコースの幅員が狭く、安全面におきまして、大会の開催の検討が必要になってまいります。先程コースの整備が困難との町長の答弁も申し上げました。現状から今の段階では大きな大会の誘致は、検討が必要ではないかというふうに考えております。

先程、中国中学・高校の大会の話も、私もちょっと以前にある方からちょっとそういうことを耳にしました。大山か氷ノ山かというような検討がなされているというお話もちょっと聞いたところでございまして、このクロスカントリーの方のコースが今の段階では、かなりの選手が来られるということになると、今のコースでは幅員が狭いというようなこともございまして、ちょっとクロスカントリーの競技は難しいんじゃないかというようなお話もち

ょっと耳にしておりますので、またそのあたり、先程も答弁しましたように、十分検討が必要ではないかというふうに考えているところでございます。

（岡本議長）　前住孝行議員。

（前住議員）　はい。中国中学とか、中国高校のスキー大会っていうのが誘致できるようになるとまたそういった選手の分の宿泊とかが増えてくるので、ぜひとは思ったんですけど、今後そういったことも考えていただきながら、支援の方をしていただけたらなというふうに思います。

ワンセグエリア拡大について

では、次の方の質問に移りたいと思います。ワンセグ受信についての質問です。

去年の今頃、電気自動車の充電場所を若桜に設置した方が良いという一般質問をしようと思っていたら、３月の補正予算で提案され、環境問題について考えているなあというふうに思いました。また、携帯電話の不感地域が久曽木、広留野で今年度中には、解消予定ですが、ほぼ若桜町の全域で繋がるようになったことは喜ばしいことです。次は、ワンセグ受信ができるようになると良いのではないかというふうに思います。この度の災害時でも、ワンセグのテレビが被災地の方で、すごく売れているそうです。それで、そういった災害時にも貴重な情報源としてテレビ視聴ができたり、また気を紛らわしたりすることができるというふうに思います。

ちょっとこの地図を見てもらいたいと思います。

これは、ＤＰＡ社会法人デジタル放送推進協会の出されている若桜町付近の放送エリアの目安となる地図です。宿内をカバーしている状況です。議会報告会で集落の公民館を回らせていただき、そのときにワンセグが受信できるかどうかっていうのも試させてもらいました。このエリア外はもちろん映りませんし、エリア内でも室内ではなかなか映りにくい箇所が多くありまし

て、まだまだ整備が必要かと思います。このことについての町長の所見を伺います。

（岡本議長）　答弁を求めます。小林町長。

（小林町長）　はい。只今、前住議員のワンセグ受信ができるようになると、災害時にもテレビ視聴ができ、エリア内でも室内では映らない箇所が多く、まだまだ整備が必要かと思いますが、このことについて町長の所見を願うとご質問でございますけども、ご存知のように、地上デジタル方式では、1つのチャンネルが13のセグメントに分割されておりまして、これを幾つか束ねて、映像、データ、音声などを送信しているとのことでありまして、ワンセグは13のセグメントの内、1セグメントを使って行っているところからワンセグと言われておりまして、地上デジタルテレビ放送を携帯電話などでも受信できるサービスとして、平成18年4月1日から放送が開始されているところでございます。ワンセグの電波は、地上デジタルテレビ放送と同じアンテナから送信されておりまして、地上デジタルテレビ放送のサービスの1つとなっております。また、携帯電話とは異なる電波を使用している関係もあり、携帯電話が通話可能なエリアとワンセグが受信可能なエリアは異なります。

若桜町の場合には、若桜中継局から電波は出ておりますが、電波が弱いためにエリアは大変狭いと伺っております。また、エリア内でも、仕切りや建物などによって、電波が遮られ、場所や建物の中など、電波の届かない場所ではワンセグが受信できません。安定した受信状態を確保して室内でも観えるようにするためにはアンテナの設置が必要になります。議員お尋ねのワンセグエリアの拡大については、通信事業者の業務として取り組んでいただくことが最良の方法であると考えておりますので、現時点で町としてできることは、放送事業者に対してエリアを拡大していただくよう働きかけを行うことではないかと考えておるところでございます。私の携帯もワンセグでございまして、町長室からはよく高野の山を見ますと入りますけども、ちょっと部屋に入ってきたら、ちょうど映らないわけでございますし、もちろん私の家にいきますと、ちょうど際でございまして入らないというようなこと、非常に弱い電波だなあという具合に思っているところでございまして、私たちもそれができるのならやっぱりそういうことは早くできるように事業者には働きかけはしていきたいという具合に思っておりますけども、ただ、なかなかご存じのように、鳥取市内にしてみても、なかなか入らないというようなことで、なかなかワンセグがどこでも入るというようなことは、今のところ、まだできてないものでございまして、若桜だけ特別にさっと早くできるということは非常に難しいかもしれませんけども、そういう面でも事業者の方にも働きかけをしてみたいという具合に思っているところでございます。

（岡本議長）　前住孝行議員。

（前住議員）　はい。事業者の方に働きかけをしてくださるということで、ありがたいと思います。それで、ちょっとこの地図には写ってないですけど、53号線沿いも調べてみました。するとやっぱり53号線は鳥取道の影響かも分かりません

が、ずっとこうエリアがつながっています。29号沿いというのは、郡家の辺はカバーしているのですけど、八東、船岡の辺はちょっと抜けていたりとかしている状況もあったりしまして、とても残念だなというふうに思っているところです。運転中には観られないことになっているのですけど、こんなことも交通量減少にもつながっていっているのかなあというふうに思っているところです。若者の意見としてちょっと言わせてもらうと、本当にワンセグが映らんとかいう些細なことで、出ていく若者もあるのではないかなというふうに思いますので、働きかけの方を再々してもらって、上手にできたらなと思っているところです。

不育治療助成について

では、最後の質問に移ります。不育治療助成についてです。

まずは、ご存じだとは思いますが、不妊症とは妊娠しにくい病気です。不育症というのは、妊娠はするのですが、育ちにくくて、流産や死産を繰り返す病気で、少しちょっと意味が違ってきます。

私ごとではありますけど、大阪のいとこに、この度赤ちゃんができましたが、まさにこの不育症を乗り越えての待望の赤ちゃんでした。治療費も高額で大変だったということです。そんな身近にある病気なので、若桜町内にも困っておられる方がありはしないかと思って、この質問をさせてもらっています。岡山県の真庭市では、この不育症の助成をされているそうです。不育症に困っておられた方が行政に働きかけ、真庭市不育治療支援事業というのを作られたそうです。このことを知っていたので、1月議会でしたか、住民に光を注ぐ交付金の話を聞いたときに、こういったことに使えたらなあというふうに考えていました。

今、県議会の6月定例会でも不妊治療の助成拡大ということを協議されていますが、さらに若桜町では一歩進んだ不育症への助成をしてみてはと思います。お察しのとおりこのことで、子どもを授かりたい家庭の背中を少しでも押せればと思いますが、町長の所見を伺います。

（岡本議長）　答弁を求めます。小林町長。

（小林町長）　はい。先程の前住議員の不育治療助成についてですけども、大変申し訳ございませんが、不育症という言葉を、私、初めて知りまして、勉強不足だなと思っておるところでございます。不育症については、国においても厚生労働省が平成20年に研究班を立ち上げ、3年間かけて不育症治療指針を作成しました。研究班による実態調査では、妊娠した女性の4割に流産の経験があり、不育症も16人に1人の割合であることが公表されました。また、新聞等メディアでも話題にされることが多くなり、少しずつ不育症に対する認識が高くなっているところであり、不育症の診断や治療には、保険適用外のものが多いのが現状だと聞いております。

日本は人口減少社会に突入している状況でもあり、現在保険適用外の治療を保険適用にするなど、まず国で考えていただくべきだと思いますし、その

ような状況の中で、岡山県真庭市では不育症治療に関わる医療費の一部助成が始められたとお聞きしております。ちなみに鳥取県内で実施している市町村はまだないと承知しておりますが、若桜町では平成23年度に新規事業といたしまして、不妊治療費の助成事業に取り組んでいるところでもございます。まずはこれの利用実績をみながら国の動向も踏まえて検討すべき事項であると考えます。十分に勉強をさせていただきたいとそのように思っているところでございます。

（岡本議長）　前住孝行議員。

（前住議員）　はい。若桜町にこういった方がどれだけおられるかという把握もなかなかしづらいと思うのですけど、やはりこういう事業があるということを広報していけば、ひょっとしたら、光を注ぐ交付金の使用目的に応じるような方に支援ができるのではないかなというふうにも思いますので、本当に国の動向もあるみたいですけど、先駆けてやっていただけたらなというふうに思います。

では、以上で質問を終わります。